

# 議 会 改 革 特 別 委 員 会 会 議 録

〔平成21年 6月19日開催〕

南 あ わ じ 市 議 会

# 議 会 改 革 特 別 委 員 会

日 時 平成 2 1 年 6 月 1 9 日  
午後 3 時 4 0 分 開 会  
午後 4 時 4 3 分 閉 会  
場 所 南あわじ市議会 委員会室

## . 出席委員、欠席委員、事務局出席職員及び説明のために出席した者の職氏名

### 出席委員（9名）

委 員 長	福 原 美 千 代
副 委 員 長	吉 田 良 子
委 員	出 田 裕 重
委 員	登 里 伸 一
委 員	小 島 一
委 員	砂 田 杲 洋
委 員	中 村 三 千 雄
委 員	蓮 池 洋 美
委 員	沖 弘 行
議 長	森 田 宏 昭

欠席委員 なし

### 事務局出席職員職氏名

事 務 局 長	湊 本 幸 男
次 長	前 田 和 義
課 長	阿 閉 裕 美
書 記	川 添 卓 也

. 会議に付した事件

1 . 委員会運営について..... 3

. 会議録

## 議会改革特別委員会

平成21年 6月19日(金)

(開会 午後 3時40分)

(閉会 午後 4時43分)

福原美千代委員長 　　ただ今より、議会改革特別委員会を開催したいと思います。

先ほど、砂田委員から申し出がありましたので、急遽、議会改革特別委員会を開くことになりました。

よろしくをお願いします。

砂田委員。

砂田杲洋委員 　　急をお願いをして、お疲れのところ改革委員会を開いていただいたんですが、今日の定数の問題も大いに関係あるのですが、もう決まったら別になんともなんともないんですよ、僕は議員定数の削減はもともと賛成です。

その手続き上に問題がありまして、以前から定数特別委員会開いて、2年余りにわたって協議して、24名という結果が出たと、議決されたと。

本会議の議決というのは市の議会の中で一番、最高の議決機関、そこで決定された。それをまだ実施しないうちに今日の提案になったと。

それと、この議会改革特別委員会、福原委員長のもとで、7回8回開いてきて、これもこの存在も無視されて提案されたということ。非常になさけないと思っております。議員として。

それで委員長も今日は定数20人に賛成されましたけれど、今までの改革委員会始まらずずっと拝見しておりますと、委員長としての自覚また、責務に欠けておるのではないかと、資質に欠けておるのではないかと、私は考えております。

そして提案したのですが、7月には視察もあるし、到底、私は福原委員長のもとでこういう活動ができにくいという考えを持っております。

失礼な言い方になるかもわかりませんが、委員長はいったん委員長の席を退いていただいて、委員としてもう少し、我々と一緒に勉強していただいて、また将来、再度、委員長になられてはどうかと思います。

いっぺんここで辞職願いをいただければと思っております。

それを提案したいんです。

委員長として無理だと思えます。

福原美千代委員長 　　この投票に関しましては私もいろいろ考えて、自分の意思で、前にも言われましたけれど、投票させていただきました。

委員長としての資質を問われることに関しては、皆さんそれぞれの思いがあると思いま

すが。

中村委員。

中村三千雄委員 見方、考え方、個人的な姿勢の持ち方、いろいろあると思います。

砂田委員が言われたのは、今、議会改革特別委員会として、今回の行動を見る限り、委員長としてはふさわしくないと。

しかし私は、議会はそれぞれ議員として、重みを持っておると思いますし、今まででも、過去においても、委員会で決めたからそのとおりいかないといけないということはない。

といいますのは、常任委員会過去にあったんですが、委員会で議決し、委員長が議決報告をしておいて、採決では反対というようなことはあったということは事実ですので、そこまで私は、個人的に行動をとったことが悪いというのは、議員のそれぞれの常識に基づいていっているんで、砂田さんはそう考えているけど、私はその立場で手一杯やっているということは理解はしておるということです。

福原美千代委員長 砂田委員。

砂田泉洋委員 いえいえ、中村委員は今回のことをいっているけど、今回だけのことだけじゃないんです。第一回目からずっと委員長の考えも何回か聞いたこともあります。それを総合的に判断して、今回の私の考えを通させていただきました。

今回のことだけじゃありません。

福原美千代委員長 蓮池委員。

蓮池洋美委員 私は特に今回のことについて、大いに不満がございます。そのために今日の発議者にはそのことを申し上げましたが、別段、答弁もなかったわけなんですけど、私個人的にも、この改革委員会の委員として、この委員会が無視されていることに、無視されていることに憤りをすごく感じております。ましてや、委員長にとっては、私以上にそう憤りはあったとは、私は推測しています。

けども、投票を見ていると、その個人の当然議員としての判断をされたというふうには先ほど言われていたのですが、私らの委員長として、こんなじゃついでいけないと、積極的な意見も出して、まとめていただくための意見は出しにくいというふうな思いに立っております。

そういうこともあって、委員長の判断が目に見えないようにという思いで、今日は無記名で動議を出させていただいた。けども、そういう私勝手な思いやりなんですけど、そういうことも無視されて、記名投票になったわけで、そういう委員長の姿が表に出てしまった。

実に残念なんです、そういうことの中で、話し合いで、そいいう状態で、理解をしながらいけたらなあ、残りいけたらなあという思いがあったんですが、今日の限りにたつては次の機会から、現委員長の下では積極的な発言もしにくいなあ、という思いで委員長にぜひとも、ひとつお考えをいただいて、お代わりをいただきたいというふうに希望します。

福原美千代委員長　　砂田委員。

砂田泉洋委員　　以前にも委員長に申し上げてあったんですが、定数の動きがあるということで、この委員会の立場もあるので、いっぺん申し入れといてくれと、いうことを言ってあったんですが、あれは向こうへ申し入れしてくれたんですか。

福原美千代委員長　　委員会としての申し入れはしておりません。  
砂田委員。

砂田泉洋委員　　委員長にお願いしてあったんやけどな、ここで。言うといってくれと、いっぺん話し合いせんかと、この特別改革委員会の顔もあると申し上げてあったんですが。

福原美千代委員長　　委員会として、そういうことは言っていることは言っていますけれど。

砂田泉洋委員　　向こうが話し合いする気がないということやったんやな。ほな。  
こんな委員会は数のうちに入らないというような感じかな。

福原美千代委員長　　それで今日も、朝にも、そういうことで、出すということで、昨日から事務局のほうから聞いたんですけど、それで調整というかたちでの話も副委員長の方からもありました。

砂田委員。

砂田泉洋委員　　この改革委員会、なんのためにしよるんやら、わからんようになってきたわけよな。

一生懸命真剣に議論してもこれなんなと。

福原美千代委員長　　出田委員。

出田裕重委員 先ほど蓮池委員から無記名投票の意味合いをお聞きした。私は、記名投票にすべきと署名をさせていただいたんですが、理由は、私も議会改革のこの特別委員会に席をおいて、今回の定数20人に賛成の署名をすることに少し抵抗を感じました。

でもそれ以上に、自治会なり、いろんな団体から再度、2回目の要望書が届いたことと、それもひとつですよ、あとあわせて淡路市、洲本市に右にならえをするなという意見も分かるんですが、やっぱり時代がそうはさせないのかなという強い思いをもっていたので、私はあえて賛成のところに名前を置いて、賛成をさせていただきました。

もちろん改革委員会の定数を中長期にやっていかないかんという言葉も耳に残っていますし、それも考えながら行動したことなんですけれど、やはり、非常に重たい議決だと思いましたが、今後にも影響するし、パフォーマンスとかそういう意味合いはおいといても、やっぱり記名投票ですべきやと。大変重たい議決事項と思ったんで、僕は記名投票にするべきやという立場を取りました。

委員長の進退については、心の整理はついてないのですけれど、記名投票にさせてもらったというのはそういうことです。

福原美千代委員長 砂田委員。

砂田泉洋委員 委員長がちゃんと言ってくれておいたら、ここに来ていただいて、話し合いもできて、もっと円満にいったんではないかと、残念に思っております。

そして、そういうこともいろいろあって、第1回目からずっとみておりましたら、委員長としての指導力に欠けるのではないかと、今日は特に感じました。

ぜひ委員になっていただきたいとお願いします。

福原美千代委員長 吉田副委員長。

吉田良子副委員長 私らは市川さんと別のグループですから、今回の議員定数の議案が発議出るとするのは、うわさばかりで、本当か事実かどうかというのは分からなかったんですが、同じ統一会派的に組まれている委員長の下では、情報も早くキャッチされていたのではないかと思います。

先ほど砂田議員が言われたように、議会改革のこの委員会の中では中長期的に検討するという事になっていましたけれど、やはりそういう情報キャッチする中では、前も蓮池委員言われてましたが、そういう動きがあるならここで検討してはどうかという話もありましたけれど、それも無視された形で、今日のことになってしまったわけなんですけれど、それとあわせて今日の採決については、せめて議場を退場するとか、そういう形で筋を通していただきたかった、委員長としては特に、思いがあります。

ですから、そういう私たちがこれまで、ここで何度となく協議されてきているというこ

とも、委員長としては、それぞれ自らの会派なり、統一会派に十分伝えていっていただいているというふうに思っております。

ですから、そういう中でこういうふうに、今日突然出されてきたということについては、私は本当にこの委員会を無視されたと思っております。それを受け止めて十分いただけなかったということに残念な思いがしております。

ですから、本当に私たちのこの委員会がどういうものを改めて考えていただきたいと思うんですけど。

福原美千代委員長　先ほども言いましたように、表決については、私の意志でさせていただきました。それは退場ということもあったかもしれませんが、自分の意図することを通させていただきました。

砂田委員。

砂田泉洋委員　今、吉田副委員長が言われたように、委員長は議会改革の委員長。我々一議員とはまた違うところがあるんです。

それもよく考えていただきたいと。そういうことがいろんな面に対して、自覚がちょっと欠けるんじゃないかと思うんです。

それで、できれば円満に穏やかに委員長の席をどなたかに代わって頂きたいと思います。

それでなかったら、あとは私らどうも委員長の元では審議もしにくい。何のためにこれ一生懸命審議しよるのかわからんようになってくる。

ほやさかい、吉田副委員長がいったように、20の動きがあるというのであれば、同じ会派で聞いておったと思うね。事前にここでもちょっというてくれとったら、もっと話し合いの場をお互いもって、話し合っていたと思うね。

議員が議案を提出するのは権限がありますから、何出してもかまんねけど、それは仲間として、仲良く議論していったらいいけど、今回の20の場合は議論もなし、ただうわさだけで、急に最終日にポンと出てきて、というようなことで、もっと議会全体で話し合いをしていくべきやと思います。

それを委員長はわかっかってんから、もっとその中の労をとっていただきたいかったということです。

福原美千代委員長　今回出すということは、昨日、局長のほうから聞きました。出る様子やということ。

吉田副委員長。

吉田良子副委員長　こういうふうに議会改革で話をいろいろされてます。それで、この構成というのは会派それぞれから出てきておりますから、当然その会派にもち帰って、

話もある一定していると思うのですが、そういう話もされているのでしょうか。この議員定数について、特に。

福原美千代委員長　　個々の議員の方、皆さんも同じだと思うのですが、私たちの会派2人、今までは2人、このたび3人。前も3人だったんですが、病欠でだったということで、川上さんとは話をしています。

吉田副委員長。

吉田良子副委員長　　そうしますと、今日、提出者の中に川上さんがおられたわけですが、そういう賛成者か、そういう中では、議会改革で自分は委員長としてやっているんだという中から、もう少し、話ができなかった。そういう川上さんの動きもつかまっていたと思うのですが。

福原美千代委員長　　それも同じで、川上議員も個人で署名したんだと思いますけど。

私がそこまで止める、いくら委員長であっても・・・。

吉田副委員長。

吉田良子副委員長　　止める止めないという話ではないのです。

いかがですか。

福原美千代委員長　　もう私は、ぜんぜん誰が署名していたか分かりませんし、それを見て、配布されたときに名前が載っているなという感じで。

中村委員。

中村三千雄委員　　今、委員長に対して、特に今回の行動は委員長としていかがなものかということが主眼だと思います。

しかし、砂田委員は今でないやと。今までの運営についても不満をもっておったんやということでございますけど、私はそれは議員個々の固有の権利なり、発言の自由もあるので、それは反対していても、まとめていかななくてはならないときは、まとめていかななくてはならないし、総意は総意としていかないかん。

そやから、私は、委員長に対して言よること、私であれば精一杯、今回の委員長の行動がいかがなものか、それについて、やめてもらいたいという意味か、それとも、やっぱり、今まであるよって交替してくれという意味か。私は、今回の行動をとったから委員長やめろというのはいかがなものかなという気がします。

福原美千代委員長　　砂田委員。

砂田泉洋委員 私、第1回からずっと見ていてそう思うのです。

今回、大ごとにしたくないので、委員長自らの意思で、一回委員長の座を降りていただいて、我々と一緒の立場で、私と同じ立場で、もう一回、皆で議論して、やっていったらどうですかということを提案しているのです。

福原美千代委員長 休憩します。

(休憩 16時05分)

(再開 16時23分)

福原美千代委員長 再開します。

出田委員。

出田裕重委員 休憩のお願いしたのですが、再度休憩していただいて、委員長のほうから発言があると、僕のほうが発言を求めていいですかね。

休憩でお願いできますか。

福原美千代委員長 休憩します。

(休憩 16時24分)

(再開 16時34分)

吉田良子副委員長 再開いたします。

ただ今、委員長の福原美千代さんから6月19日で一身上の都合により、議会改革特別委員長を辞任したいという辞任願いが出ております。

そういうことから、委員会条例にのっとって、委員長および副委員長の辞任という項目があるんですが、13条に、委員長および副委員長が辞任しようとするときは委員会の許可を得なければならないというふうに条文としてうたっておりますので、この委員会でお諮りしていきたいと思っております。

よろしいでしょうか。

そしたら、ただ今福原委員長から辞任願いについて、皆様のご承認をいただけるかどうかお願いしたいと思います。

(異議なし)

それでは、全員の賛成で福原委員長の辞任願いを許可することといたします。  
暫時休憩します。

(休憩 16時35分)

(再開 16時36分)

吉田良子副委員長 再会します。

委員長の辞任が委員会の許可ということになりましたので、委員長が空白になっておりますから、早速委員長を決めていきたいと思っております。

委員会条例の中では、委員会において互選するということになっておりますが、どういふふうに計らって、委員長を決めていきましょう。

砂田委員。

砂田泉洋委員 ひとつ提案します。

副委員長がそこに座っておられるので、副委員長が委員長になられたらいいと思うのですが、皆さんどうですか。

吉田良子副委員長 今、砂田委員からそういうふうな提案があったわけなんですけど、他にご意見はあるでしょうか。

小島委員。

小島 一委員 一応よ、自薦、他薦あれば聞いてもらわないと。

吉田良子副委員長 今、小島委員から自薦他薦という話がありましたけれど、自ら委員長にという方があれば、ざっくばらんに、挙手をお願いしたいと思います。

ないようですので、そうすればいかがいたしましょう。

砂田委員。

砂田泉洋委員 吉田委員長で。

吉田良子副委員長 砂田委員の提案でよろしいでしょうか。

そうすれば、僭越ながら、委員長をさせていただくということで、ご了解のほどをよろしく申し上げます。

そうすれば、それとあわせて、私、これまで副委員長をさせていただいていましたけど、副委員長についてはいかがいたしましょう。

砂田委員。

砂田泉洋委員 若い人で、やる気のある人で、出田委員を推薦いたします。

吉田良子委員長 砂田委員から出田委員に推薦ということがあったんですが、出田委員。

出田裕重委員 ひとつ確認をしておきたいのですが、私、福原委員と3名会派から2名出てきているということと、今回20名に賛成したことを勘案して、副委員長に指名されましたけど、その辺も勘案していただいて指名されているのでしょうか。

吉田良子委員長 今、砂田委員の意見に対して、出田委員から発言もあったわけなんですけれど、委員の了解があれば、副委員長引き受けてもいいというような発言であったと思うんですが、いかがでしょうか。

出田委員はそういうことがあったが、委員の推薦があれば引き受けてもいいですよという旨の発言だったと思うんですけど。

(異議なし)

それでは、出田副委員長どうぞよろしくお願ひしたいと思います。

吉田良子委員長 休憩します。

(休憩 16時40分)

(再開 16時41分)

吉田良子委員長 再会します。

今、皆様のご了解のもと、委員長、副委員長が決まりました。

それで、これまでいろいろこちらも厳しい意見も言わせていただきましたけど、福原委員長はこれまでご苦勞もあったかと思ひますので、一応、退任のあいさつを受けたいと思ひます。

福原美千代委員 いろいろ皆さまと一緒に最後までやってきたかたんですけど、

私のほうからやめるということで、それと、今日の取った行動は再三いいますけど、私は間違いなかったと思います。

また皆さんと一緒にがんばって、議会改革特別委員会の一委員として、また皆さんと一緒にやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

吉田良子委員長 本当に、先ほども言いましたけれど、少し言葉が過ぎた部分もあったかと思っておりますけれど、福原前委員長には本当にご苦労さまでございました。

それでは、私のほうから改めて委員長にということで、推薦もいただき、これからの議会改革特別委員会も日数も限られておりますけれど、今日も広報のほうからも申し出もありましたけれど、できることからやっていくということで進めていきたいと思っておりますので、委員の皆さんのご協力をどうかよろしくお願いいたします。

副委員長も一言ご挨拶をお願いします。閉会の挨拶を兼ねてお願いします。

出田裕重副委員長 副委員長の初仕事でございます、よろしくお願いいたします。

本当に一番若輩者の私ですけど、残された任期、4ヶ月しかありませんが、できるだけ実のある引継ぎをしたいなと思っておりますので、委員の皆さんの今後のご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、本日、大変お疲れのところ、ありがとうございました。

(閉会 16時43分)

委員会条例第30条の規定により、ここに署名する。

平成21年6月19日

議会改革特別委員会

前委員長 福原美千代

委員長 吉田良子